

月刊 あなたにこの **本** を！ 平成 24 年 **11** 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



だからこそできること



乙武洋匡、武田双雲 共著
主婦の友社 1365 円 (0012530243)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

書道教室で子どもたちを指導する武田と、当時小学校教員をしていた乙武が、教育について対談した。二人は自分達の生い立ちや体験から、子どもの成長において必要なものとは何かを熱く語る。「しつこい」という欠点に思われるが、「だからこそできること」とつけ加えると、「あきらめない」という前向きの思考に変わる。「だからこそできること」という魔法の言葉は、誰にでも自分の役割があることに気づかせ、生きていく力を与えてくれる。[Bオトタ]



「まち歩き」をしかける ーコミュニティ・ツーリズムの手ほどきー



茶谷幸治 著
学芸出版社 1785 円 (0012563975)

ジャンル：大阪にゆかりの本

コミュニティ・ツーリズムとは、まち歩きを通して、その町の魅力を味わう観光を言い、大阪では著者がプロデューサーを務める「大阪あそ歩(ぽ)」が実績をあげている。市民が案内役で、一緒に歩くというスタイルは、低コストで実現でき、知的スポーツとして成り立つなど、様々な可能性がある。まち歩きを成功させる方法や工夫が、事例に沿ってイラストや地図で丁寧に説明され、観光行政や業界に新しい風を入れたまち歩きの魅力を存分に伝えている。[688]



浄瑠璃を讀もう

橋本 治 著
新潮社 2100 円 (0012564684)

ジャンル：歴史・文化に親しむ

かつて、人形浄瑠璃(文楽)の全文テキストは読み物として出版されており、それは近代小説の先祖だと著者は言う。江戸時代の町人たちは、身分を隔てた貴族・武士が主人公の芝居では話に入り込めない。そこで『仮名手本忠臣蔵』では主役が家来たちに移り、その悲劇に共感できるようになっていると看破する。時代とともに価値観や思考が変わったため、難解になった箇所を丁寧に拾い上げながら、その現代性にも光を当て、代表作8点を解説した労作である。[912.4]

災害と妖怪 ―柳田国男と歩く日本の天変地異―

畑中章宏 著
 亜紀書房 2100 円 (0012562597)

ジャンル：知識・教養を深める

柳田国男の著作には、明治三陸大津波で亡くなった妻に出会う男や、洪水を予告する老人の話が記されている。古来より人々は、地震、水害、飢饉(ききん)などの非常時の記憶を伝えるため、また被災による悲しみや怒りと折り合いをつけるため、民話や妖怪を生み出してきた。著者は、河童や天狗(てんぐ)などの物語に、どのような災害の記憶が仮託されているかを解き明かす。理不尽に襲いかかる災害を、懸命に乗り越えようとしてきた日本人の心の営みが胸に迫る。〔388.1〕

星のかけらを採りにいく ―宇宙塵(じん)と小惑星探査―

矢野 創 著
 岩波書店 882 円 (0012542610)

ジャンル：知識・教養を深める

宇宙塵は宇宙起源の微粒子で、地球上で採取できる。その宇宙塵よりも太陽系誕生の様子がわかる小惑星イトカワの土壌サンプルを、探査機はやぶさは持ち帰った。サンプル採取装置を開発した著者が、宇宙探査によって太陽系と生命の起源を追い求めるという、未知・未踏の領域への挑戦の魅力を語る。章末のコラムでは、自ら切り開いてきた人生をつづる。未来は予想するものではなく、自ら設計するものという言葉には、次世代への励ましが込められている。〔538.9〕

其礼成(それなり)心中

三谷幸喜 著
 パルコエンタテインメント事業部 840 円 (0012583967)

ジャンル：大阪にゆかりの本

本書は、現代の喜劇作家が初挑戦した文楽の脚本。『曾根崎心中』の後、心中の名所となった大阪曾根崎で、「曾根崎饅頭(まんじゅう)」を売り出した半兵衛、おかつ夫婦が巻き起こす騒動を描く。文楽界待望の新作であり、テンポの良い展開と、笑いと涙あふれる内容で読者を飽きさせない。また、近松の名セリフを下敷きに、「逆ギレ」などの現代語も交えた文章は、初心者にも分かりやすい。本作は、伝統芸能の間口を広げ、新たな可能性を感じさせる。〔912.4〕

生きのびるためのがん患者術 ―伝わる「ことば」の使い方―

青木晴海 著
 岩波書店 1785 円 (0012580243)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

大学講師の著者は 52 歳の時に、重度の肺がんの告知を受ける。治療を受けるうち、患者が自分の体の痛みや心情を「ことば」にして医師などに伝える重要性を強く感じる。何度も病院に要望したことでリハビリを受けられ、手術で失った声を取り戻すこともできた。伝えることを実践する中で、病に主体的に向き合い、病気を乗り越える力を得た著者の姿に、希望を見出せる。友人や家族などの支え、治療中の心身の変化等を克明に記した貴重な記録でもある。〔Eアオキ〕

父と息子のフィルム・クラブ

デヴィッド・ギルモア 著、高見 浩 訳
 新潮社 1995 円 (0012560035)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

「学校に行きたくない」と言う 15 歳の息子に、映画評論家である著者は、学校を辞めてもいいが、代わりに週に 3 本一緒に映画を観ようと提案する。好きなことから何かを学んで欲しいという思いからだ。恋に悩み、将来への不安に揺れる息子の、その時々状況に相応しいと思う作品を選び語り合う。著者自身も悩みながら共に過ごした 3 年間がつづられ、親子のきずなと深い愛情が伝わってくる。作品リストも掲載され、一味違う映画ガイドとしても楽しめる。〔Gギルモ〕